

愛媛県南予地域における水産業の ICT 化支援

○入野和朗（愛媛大学 社会連携推進機構）、小林真也（愛媛大学大学院 理工学研究科）

1. はじめに

世界的にも養殖業は、有力な食糧生産方法であって、右肩上がりの成長産業として期待されている。愛媛県南部（南予地域）は、日本最大級の養殖地帯で、年 650 億円ほどを誇り、愛媛県南部を支える中核産業となっている。ただ、近年の少子高齢化や経営の不安定さ等の要因によって、右肩下がりに漁業従事者が減っている。その要因は、輸入に頼っている餌原料や燃料代の高騰、魚離れによる魚価の低迷などである。前者のような経営コストを圧迫する要因を下げるには、効率の良い経営手法・技術の確立が望まれる。その一つが水産業における ICT 化推進であると考え、筆者は工学部の教員らを中心とした研究開発の企画立案・調整、運営支援に携わっており、これらプロジェクトの成果を報告する。

2. 調査概要

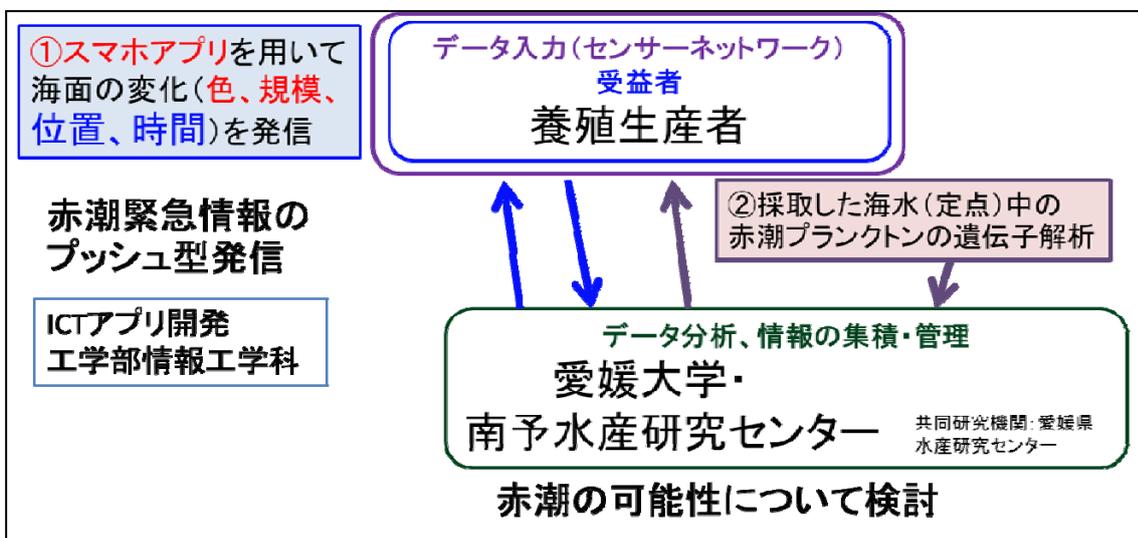


図 1. 赤潮の双方向情報通信システム

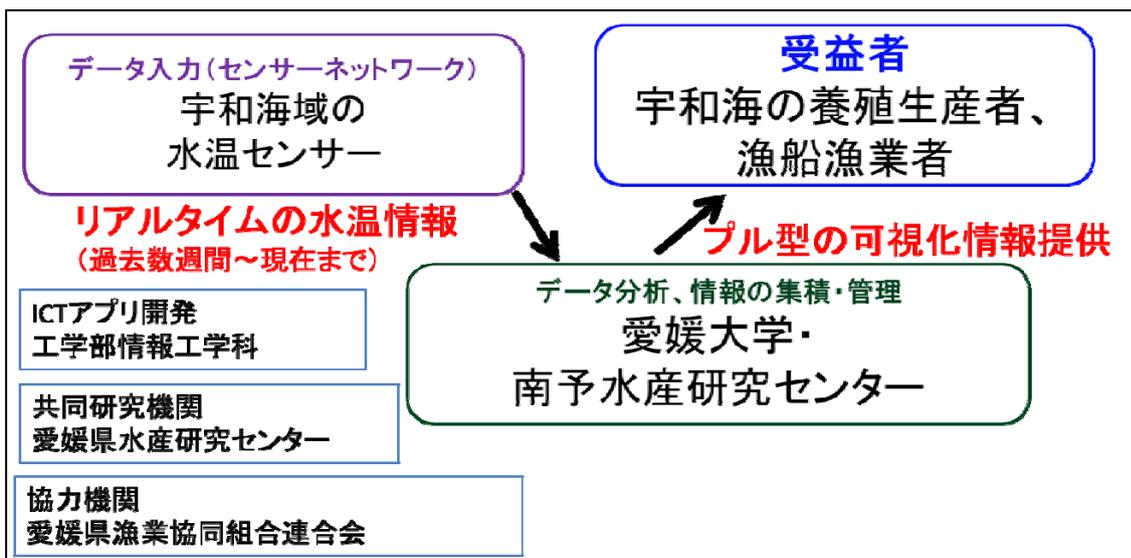


図 2. 海況 4D 情報の可視化システム